

会報

大学生協友の会

2024年11月1日  
第44号  
大学生協友の会発行〒166-8352 東京都杉並区和田 3-30-22 全国大学生協連役員室 TEL: 03-5307-1111  
E-mail univcoop@univcoop.or.jp ホームページ: <https://unico.itigo.jp/>

## 大学生協友の会 十二月親睦会のご案内

## 友の会幹事長 伊野瀬十三

会員各位におかれましては、  
息災にてお過ごしのことと存じま  
す。

十月に入っても真夏日があり  
ましたが、今夏は記録的な猛暑  
となりました。私の住む横浜で  
は、六月から月の猛暑日（三十  
五度度以上）が二十二日あり昨  
年は九日あり、真夏日とあわせ  
ると六十一日を記録しました。  
加えて日本列島では、大型台風  
の来襲やゲリラ豪雨が頻繁に発  
生しました。

能登半島では、地震と豪雨の  
複合災害にみまわれ、いまだ政  
府や県当局の支援は遅れ、大き  
な問題となっています。こうし  
た気候変動は、地球規模で起き  
ており、年々深刻化しています。  
地球温暖化（灼熱化）は、食料  
不足を引き起こすなど今や抜き  
差しならぬ段階に至っています。  
財務省が九月上旬に公表した  
法人企業統計によると、企業の  
内部留保は二〇二三年度初めて

六〇〇兆円を超え十二年連続で  
増え続けています。アベノミク  
スによる通貨安政策は、多くの  
企業にとって懸命に努力しなく  
ても一定の利益を上げる緩みきつ  
た経済環境を生み出してきました。  
このため、世界経済をけん  
引しているEVや半導体、AI  
といった分野は、米を中心と  
する海外企業から日本企業は大  
きく遅れをとってしまいました。  
そればかりか、新しい産業の創  
出も全くだきていません。大企  
業はため込んだ資金を人への投  
資をはじめ社会に還元してゆく  
責務があります。

九月下旬、自民党総裁、立憲  
民主党の代表選挙が行なわれ、  
公明党を含む各党の新しいトッ  
プが選出されました。十月二十  
七日には総選挙投開票が行なわ  
れ、この会報が皆さんに届く頃  
には総選挙の結果が出ています  
が、私は裏金問題や統一教会と  
の関わりについてケジメがつけ

られないばかりか、貧富の格差  
を拡大させ、ここまで日本を衰  
退させた自民党が、政権の座か  
ら退場してほしいと思っています。  
す。

来たる十二月七日（土）、恒  
例の友の会親睦会が開催されま  
す。今回は、開会時間を一時間  
早め、足元が明るいうちに帰宅  
できるようにしました。多くの  
皆さんと楽しく有意義な交流の  
場にしたいと思いますので、万  
障お繰り合わせの上参加されま  
すようお願いいたします。

## ☆友の会会員親睦会の日程

●日時…二〇二四年

十二月七日（土）午後二～四時

●会場…杉並大学生協会館  
五階ダイニング

●会費…二千五百円

※同封のハガキまたはメール  
にて出欠、近況をご連絡くだ  
さい。

締切…十一月二十三日（土）

# もう七〇回、台湾映画でわいがやの楽しみ

二〇二一年退職 覧塔 久信

日曜夕方の楽しみは

「台湾ぶらぶら」

大学生時代からの友人四人が三週間に一度、日曜の夕方、オンライン飲み会に集まります。

お題の台湾などの映画を見て、その感想交流をするのがこの会です。近況交流もします。「台湾などの映画」なのは、香港・中国・韓国などの映画も取り上げているからです。比較的簡単に見ることのできる台湾映画はそれほど多くないのです。

何が楽しいかというと、毎回テーマがあることです。一つの映画



を見て、感じたことを気兼ねなくおしゃべりして日曜の夕方をわいわいがやがやと過ごす、これが楽しいのです。

なぜ台湾映画？

それは台湾映画『幸福路のチー』から始まったからです。この長編アニメは現代を生きる台湾女性の成長と台湾の変化を描いています。友人が興味あると声かけてきたことで二〇一九年十二月、一緒に見ました。気が付けばその日のうちに台北行きの航空券を予約して、翌年一月十一日、私はその地にいました。旅では『幸福路のチー』聖地巡礼もしました。幸福路一六八番地がチーの故郷です。番地表記変更で迷いました。ところが日本語の上手な台湾の方に出会って、確かにこの辺だという場所にたどり着くことができたのです。そこからこの会は二〇二〇年五

月に始まり、この九月で七〇回を数えました。

台湾映画を通して知る台湾のこと、日本のこと

もちろん映画を作品として楽しむわけですが、台湾の文化、歴史、社会情勢、暮らし、人間模様、学校、仕事、生き方、宗教、はてはお葬式に至るまで様々なことを知りました。映画はフィクションですが全く嘘でもありません。中国大陸との関係、日本が統治していたことによる事柄といった複雑なことも、複数の作品で立体的に理解できる面白みがあります。

たとえば『海角七号 君想う、国境の南』は二〇〇八年に台湾で公開され、台湾映画興行収入の記録を塗り替えた大ヒット作品です。映画は台湾最南端の町・恒春を盛り上げるためにコンサートをするという現代の群像劇です。その縦糸は敗戦後、日本人男性が引き揚げる船上で、別れざるを得なかった台湾人の恋人に認めた手紙です。映画では國語である台湾華語（中国語です

ね）、古くから使われている台湾語、台湾人が話す日本語が使われます。先住民族や客家も登場します。北の台北と南の恒春の違いもあります。台湾映画というとバイクで疾走は欠かせないあとか。

台湾にまた行きたい、そんな気持ちにさせる「台湾ぶらぶら」は楽しいです。

写真の説明

写真一…『幸福路のチー』で重要な舞台となっているこの橋の向こうが幸福路一六八番地付近写真二…開業間近だった台北 MRT幸福駅  
(どちらも二〇二〇年一月撮影)



## 早大生協OBOG会報告

早大生協OBOG会は、十月五日（土）十五時から二〇二八年度末完成予定の理工学部「新五二年館」への生協入館（四階カフェテリア、地階に購買・書籍・サービス）が予定されている理工学部五六号館食堂にて二十名の参加で開催されました。

総会に先立つ幹事会にて、昨年六月幹事会の決定を踏まえて、本年八月より募金を開始した「早大生協応援」募金状況について（十六名八七口四十三万五千円）が報告された。この募金は「早大生協給付奨学金（大学への寄付）」と「理工学部新施設」開業支援（生協への寄付）を目的にしたものです。

総会に提出された早大生協の経営状況は、大変厳しいものであり、コロナ禍（二〇一九年度）対比で、利用客数は対比△四七％、供給高△三一％、事業剰余△二七％という現況にあり、この苦境からの脱却を目指す早大

生協の現役役職員への励ましとなることを願った取り組みとして、募金の輪を広げることを確認しました。

総会は、始めに大久保会長の挨拶、早大生協専務の山口知子専務理事（当日ご家族の発病に感染回避で欠席）作成の現況報告をもとに、二五年度以降の重点課題として①食堂事業の黒字化（大隈ガーデンプラスマイナスゼロ、理工食堂黒字化）と価格改定、②大学への水道光熱費と施設維持費支援依頼、③書籍割引をポイント還元とする④食堂非組合員価格の引上げ（十％から二十％）⑤住まい事業と公務員講座の収益拡大などの取り組みを進めることが紹介された。和久井幹事長より、二十五年度幹事会体制は前年度を継続する旨の提案、および二十四年度会計報告があり、了承されました。

その後の「還暦を祝う会」で

は、還暦を迎え参加された山下哲也さん、遠藤深雪さんに記念品が贈呈され、ご挨拶をいただきました。京都から参加された山根久之助さんの地元仁和寺門前へのホテル建設認可撤回署名の依頼を始め、初めてのご参加の方々、久しぶりに参加された十二名の皆さまから近況報告をいただき、往時の思い出を語りあう懇談の場となりました。来年二〇二五年十月四日（土）の再会を確認し、閉会しました。



### 友の会事務局 からのお願い

本年10月の郵便料金の値上げにともない、会報のPDFでのデジタル受信への協力をお願いします。

●同封のはがきまたはメール（univcoop@univcoop.or.jp）にてPDF送付希望と明記の上メールアドレスをご連絡ください。

●又、会報の寄稿も大歓迎です。よろしくお願ひします。



# 大学生協の思い出

二〇二四年入会 山崎 精一



人生の中で、大学生協に約30年以上、勤めさせて頂きました。大学生協に入る前は、好きな英語が生かせるので、大手旅行会社K社の海外専任添乗員(Tour Director)をやらせてもらい、約50回ほど海外への添乗業務をやりました。

その後、当時、新聞広告で有名だった某KR社に入り、海外企画の作成や手配業務などをしておりました。その社にいる時に、国試の「一般旅行業務取扱主任者」に1回で運よくうかりました。そこで、アメリカのLos Angelesや、

ヨーロッパのLondon、Parisを中心にそれぞれ10回以上、珍しい所では、エジプト四回、ケニア二回、イラク一回(まだ、当時、サダムフセインの大きな写真ポスターがあちこちにありました)、インド一回(年間で一番暑い5月末だった為、五二度にもなり、お客様がバタバタ熱中症的になり、看病させて頂きました。

一緒に廻っていて、現地の国立インド大学の日本語学科を卒業した、日本語ガイドのヨゲシュ君も、タージマハールのあるアグラのホテルで倒れて、私が彼を看病しました。御礼に「蛇のコブラの皮の財布」をもらったのですが、あまりにも、「蛇感」が強く日本では使えませんでした・・・、あとニューカレドニア二回、バリ島四回、香港・広州・桂林三回などなど、添乗

しました。

ケニアは赤道が通っているの、暑いイメージがあるかと思いますが、国全体の標高が平均千二百mもあり、インド洋に面していて港があるモンバサ以外は、意外と涼しいのです。首都の「ナイロビ」は、現地マサイ語で「Place of cold waters」＝「冷たい水の場所」という意味だそうです。一面に広がる大草原とたくさんの動物は、圧巻でした。また、エジプトの歴史遺産もすごかったです。

KR社にいた際に、不条理な上司と出会ってしまい、退社することになりました。朝日新聞の募集欄に、慶應義塾生協が、「一般旅行取扱主任者」の資格者を募集しているのを見つけ、応募させて頂き、当時の亘専務に採用頂きました。勤務は、慶応三田の、一階にあるプレイガイドになりました。五月ころに慶生協の旅行取扱免許がおりて、旅行の受付をはじめ、それ以外の名刺印刷、写真プリン

トなど受付や、印刷の受付、車の教習所の受付などもやらせてもらいました。当時、「卒業旅行」がすごいブームで、春休みに向けての、海外旅行、国内旅行が、羽が生えたように売れ、残金が「現金回収」だった為、ピークでは毎日一千万円以上の供給高があり、レジに1万円札が入りきらない状態が1週間通して続きました。そういった中で、「レジ誤差」が発生したりして何度も万札を数えなおしても、またレジロールを何回も見ても、発見できず、始末書になったことをも何度かありました。

連合の渋谷トラベルセンターでは、現金回収を、作成した指定の「銀行振込用紙」で回収しているのを知り、蓮見店長を通して、日吉の本部に、それを提案して協和銀行に専用口座を開いて頂き、以後、現金回収がすごく楽になった思い出があります。

慶応三田PGの後、事業連合のサービスマネジメント商品担当で、呼ばれました。

部長は東大生協から来られた、釜田部長でした。

初めて出勤したら、釜田部長が、当時ごく少数の人しかやってなかった、NECのPC98とプリンターがパソコンラックにまとまってあり、パチパチとワープロを打ち込んでいらつしやつたのを見て、びっくりしました。

デジタルに強い、すごいスマートフォンな上司の人がいるなあと思いました。廻りの商品担当の人は、未だパソコンが普及する黎明期で、誰もワープロで月次の企画書を作成してなかった時期でした。釜田部長以外商品担当は、「手書き」での企画書でした・・・

釜田部長に尋ねたら、東大生協の理事会で、当時の岡安専務が、理事会文書を全てパソコンに入力して、パソコンがないと見れなくなった為、やむおえず自腹を切つて、PC98のセットを買ったとのことでした。経費ではなく、自腹だったのも、びっくりした記憶があります。

そうこうするうちに、パソコンの普及が始まり、商品担当用のPC98が1台サービス事業

部に経費導入されました。ところが、1台だった為、とある商品担当のIさんとYさんが、どちらが先に使うかで小競り合いとなった為、釜田部長が所沢から、EPSONの互換機を1台入れてもらいました。

今では1人1台が当然なので、なにか振り返ると、ほのぼのしい思い出となっています。

サービス事業部では、当時「ULINE」の店舗システムを導入がなされようとした時期で、稼働した直後の十二月から担当していた「帰省フライト」の「残席数」の表示や、予約が「ULINE」からできるようになった最初の年でした。あと、「レンタカー事業」の担当もありました。

その後一年後に新宿のTRビルにあった、連合会の旅行部（事業センター）へ、移動となりました。最初はオセアニア課でフライトの管理、新宿営業所の店長、となりのビルの三信ビルにあった経理部へ異動したが、呼び戻されて、「語学研修」の

全国パンフレットの企画作成担当となりました直で主催ツアーの「アクティブイングリッシュ」という、海外語学研修の企画作成を担当した。「ツアータイプ」のパンフと、別のフライトが入っていない「個人語学研修」の二種類の全国パンフレットと、それぞれの販売マニュアルの作成であり計四冊を一人で任されて、夏休み時期と、春休み時期の年二回の作成で、けっこうハードな労働でした。パンフ発行時期

が迫ると、「徹夜が数日続き」、かなり「しんどかった思い出」があります。ただ、語学研修がちょっとしたブームで、夏休み版で、主催ツアーの「アクティブイングリッシュ」が、今まで百五十件ほどしか申込がなかったものが一気に千件以上になった時は、自分自身も、びっくりしました。ただ、かなりオペレーションが大変でした。語学研修の担当で、正直疲れ果てたのもあり、一時期、「国際学生証の担当」に変えてもらった事もあります。再度語学研修に戻り、そのあと、一年間「日本旅行に

出向」となり、戻ったら所沢の当時の「計算課」にいわゆる左遷の憂き目にも逢いました。数年の後、連合の常務理事になられていた、釜田常務に相談させて頂き、「学会支援センター」に異動しました。その後「ISOの担当」最後は「インカレ」の勤務となり（生協の白石さんと一緒でした）、60才の年の翌年3月で定年退職しました。

長くなりましたが、「徒然草」的につつつてみました。

昨年の2023年10月22日で、満で70才になりました。「古希」とかいうれしいですが、茨城県の「国営ひたち海浜公園」にある「コキア」と勘違いした人がいましたが・・・。

時は止まらず、流れ、順番に年を取りますが、大学生協で過ごした時間は人生の中で、かなりの長い時間ですので、そこでお会いした方々と、また、「友の会」などで、お会いできるのはいへん楽しく、またありがたいと思っています。

たすけあいの輪をタテとヨコに広げ、大学生協共済を未来へつなぐ  
日本コープ共済生活協同組合連合会 執行役員 大学担当 兼 大学本部 本部長(元大学生協共済連専務理事)

佐藤 和之

## 共済事業譲渡と大学生協連の解散

コープ共済連に学生総合共済を学生業を譲渡し、大学生協共済連が解散してから、二〇二四年十月一日をもって二年が経ちました。私たち、旧大学生協共済連の役員は、コープ共済連に転籍し、新設された大学本部や事務本部などに所属し業務にあたっています。私たちの最大の使命は、大学生協が四十年以上(学生総合共済の事業開始は一九八一年)に渡って大切に育ててきた、大学生協の会員生協や組合員が意思決定に参加するプロセスを継承し、「わたしたちの共済」をさらに発展させていくことです。

大学生協「再生」および共済事業譲渡をめぐる議論では、元受団体(共済契約を引受けて事業責任を負う契約引受団体)がコープ共済連に移ることにより、「大学生協の共済ではなくなる

のではない」との懸念の声が多く聞かれました。会員生協と議論を重ねるなかで、大学生協共済を発展させていくのは大学生協の意志次第であり、むしろ大学生協と地域生協が連携すること、共済事業をさらに発展させていく可能性が広がることの理解が深まりました。

コープ共済連のもとで、大学生協と地域生協は、同じ会員として、相互理解を深め、相互連携を強めることで、これまで職域生協である大学生協では実現できなかった、たすけあいの輪をタテ(卒業生に保障を継続する)とヨコ(大学生協のない大学・専門学校の学生に保障を提供する)に広げることができるようになりました。

## 二〇二四年新学期の加入状況

二〇二四年新学期の《CO・OP学生総合共済》の新規加入者

は十四万五千、五百五十四人となり、三年ぶりに十五万人加入を割り込む結果となりました。

要因としてア、入学手続をWeb化する大学が増え生協の案内を送れなくなったことイ、プラン提案が弱かった生協では価値よりも価格で判断されてしまったことウ、入学意思決定が遅くなるなか未加入者対策が不十分だったことなどがあげられます。

組合員や大学の変化への対応が遅れた結果と受け止めています。二〇二五年新学期はア、個人情報取得を強化し生協の資料を合格者全員に届けるイ、大学生活に必要な保障として《学生総合共済》の価値を伝えるウ、新

学期の早期化・再構築を行う、以上の三つを重点課題として、新規加入者十六万人をチャレンジ目標に、十五万人以上の加入者を迎え入れることをめざします。

また二〇二四年三月卒業生を対象とした新社会人コース(卒業生を対象にした《CO・OP学生総合共済》からの更新・更改専用コース)では、受付者数

は三万三百十二名となり、卒業生の継続率は二七、一%となりました。卒業後、無保障で社会に送り出すことのないように、切れ目のない保障を実現するため、二〇二五年三月卒業生に対しては継続率五〇%をめざします。

さらに、大学生協のない大学・専門学校での《CO・OP学生総合共済》の新規加入者は、二〇二四年三〇八月累計で五千八百五十七人であり、大学生協と地域生協が連携し、大学などへの提案を強めています。

たすけあいの輪がタテとヨコに広がったことにより、《CO・OP学生総合共済》の加入者数は六十八万人まで大きく増えることになりました。

コープ共済連大学本部では、大学生協と地域生協との連携を強め、若年層(すべての学生)にたすけあいの輪を広げることにより、生協事業の利用を促進し、組合員活動への参加を推進し、日本における生協運動・共済事業の新たな可能性を広げてまいります。

# 東大生協OBの会通信

発行人  
矢野和博

編集  
對馬 芳

東大生協OBの会通信を寄稿頂き掲載させていただきます。

六月二十五日～二十六日、東大生協OB・OG会にて、第四回福島バスツアーをおこないました。

初参加の中久保武雄さんのレポートを二回に分けてお送りします。

福島ツアーに参加して

東大生協OB・OG会企画による福島バスツアーに参加した。この企画は三・一一震災直後に

## 福島ツアーpart4



三回実施され今回で四回目となるが、僕自身は、受験勉強中ということもありこれまでのいずれにも参加できず今回が初めての参加となった。参加者は運転をお願いした伊藤隆志さんを含め13名、行程は以下の通りだった。

◇一日目 池袋集合・発から道の駅ならはからとみおかアーカイブミュージアムから東京電力廃炉資料館から富岡文化交流センターにて講義「東日本・津波・原発事故震災から十三年」（福島県生協連会長 佐藤一夫氏）受講からホテル蓬人館着・夕食宿泊

部屋でDVD鑑賞（後述）  
◇二日目 ホテル発から東日本大震災・原子力災害伝承館↓昼食から震災遺構請戸小学校から希望の牧場よしざわから池袋着・解散  
以下、行程で心に残ったことを簡単に記す。

① 全体として、今回はミュージアムや伝承館、廃炉館など施設の見学が多く、被災地や被災者と直接触れる機会が少なかった



JR富岡駅前商店街にあったミチ美容室の看板時計（とみおかアーカイブミュージアムに展示）  
たので、被災と復興の様子を生成で感じるものが少なく残念だった。ただ、各地で被災の記憶を風化させず、未来に継承していくのだという決意は感じられた。宮城や岩手と違い、福島の場合は、放射能の影響もあり、復興への道のりは長く遠いという印象はぬぐえなかった。

② 東京電力廃炉館。富岡町にあるこの施設は二階建て3つのゾーンからなっている。ゾーン1はプロローグで、入り口を入ったところに会長の挨拶がある。

ゾーン2は「記憶と記録・反省と教訓」、ゾーン3は「廃炉現場の姿」。いずれも、住民に多大な損害を与えたことに対して心から陳謝し、復興にむけて真摯に努力している姿をみせようとしているが、事故調査や裁判などで明らかになってきた東電の無責任で不真面目な言動とあわせ考えるといささか興ざめの感をぬぐえなかった。

③ 福島県生協連会長の佐藤一夫氏が途中から同行して道先案内をしてくださり、一日目の夜福島の実状について講義をしてくださった。講義は短いものだったが、八十八ページに及ぶ資料を用意してくださり、帰ってから読んだ。福島の実状について理解が深まった。なお、この資料の中で特に僕が注目したのは、廃炉と復興の見通しだ。廃炉作業について、先の廃炉館での説明だと、いかにも順調に進んでいるように演出されているが、実はほとんど進んでいない。例えば、一～三号機に残る溶解核燃料（デブリ）八百八トンと推定されるが、仮に推定通りの量



を三十一年間で取り出すとなると、単純計算では一日あたり80キロのペースで取り出す必要がある。13年余りが経過してなお一片も取り出せていない。そして、デブリも含めて廃棄物の処分する方法さえ決まっていない。日本原子力学会の試算によると、福島第一原発廃炉が完了し、敷地を再利用できるようにするには最低でも百年以上（デブリの取り出し完了後すぐ解体・撤去作業を始めた場合）、放射能の低減を待つて解体・撤去した場合は、完了まで百数十年から数百年要することである。

一方、復興については以下のような記述がある。

原発事故から十三年が経過しようとしているが、避難先に定住する住民も多く、国が避難区域に指定した12市町村の人口減少に歯止めがかかっていない。本来であれば、もともと住んでいた住民が戻るような施策に全力で取り組むべきかと思うが、そうした住民の帰還を諦めたかのように、こうした地域に新しい産業を起し、全国からの移

住を促し新たな活力を見出だそうとする構想だ。この構想は、国や県がすすめる「福島イノベーション・コスト構想」といい、3つの柱（①あらゆるチャレンジが可能な地域②地域の企業が主役③構想を支える人材育成）と6つの重点分野（廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙）からなる。



講演中の佐藤一夫氏

福島県生協連会長

少し変？今この構想の大きな課題は、地元企業の波及効果だ。東京大学大学院元教授のカン・

サンジュン（姜尚中）氏は「ハイテク産業を導入するだけでなく、自分たちの身の丈にあった仕事を復興させることこそが大仕事だと思う。身の丈にあった産業や振興をはしって一挙にやろうとした一つの負の遺産が原発事故だ。では、福島では何かと考えると、やはり第一次産業である農業や漁業を再興すること。それが被災地の人々の暮らしや仕事を支えることにつながる」と言っておられた、とある。私（中久保）はふとナオミ・クラインの「惨事便乗型資本主義」のことが頭をよぎった。

いただいた資料の巻末に「コヨット！（福島の子ども保養プロジェクト）」の取り組みが紹介されていた。これは、生協連などが中心になって、放射能のために屋外で遊べない子どもたちを放射能のない県内外の公園や牧場、動物園、水族館等に連れ出し、思い切り遊んでもらおうという企画である。故西村一郎氏の著書「福島の子ども保養（「コヨット！協同の力で被災した親子に笑顔を」に詳しい紹

介が載っている。

④ 夜、食事の後、宮内さんがDVDを用意してくれ部屋でみんな鑑賞した。DVDは、5月12日放映のNHKスペシャル「福島モノローグに二〇一一・二〇二四 フクシマのサムライと呼ばれた男の十三年の記録」の録画で、富岡町の松村直登さんを密着取材。原発事故で避難指定となった町にとどまり、取り残された動物の命を救った。また、除染後の荒れた田を整え合鴨を使って有機農法の稲を実らせた。田は除染作業の後、いくつもの大きな石が投げ込まれており、それをひとつひとつ取り除いていく。この田は松村さんの先祖が百年前に新潟から移住して開墾したもの。収穫した米を「この米はうまいんだ。うまい米は塩だけで食べる」と塩と梅干でうまそうに食べる。「うまい米が食えるようになる」と、きつとまた人がもどってくる」。感動的な映像だった。なお、松村さんは後述するフオトルポルタージュにも登場する。

（次号へ）